

「農業技術革新・連携フォーラム」概要

- つくば国際会議場で行われたフォーラムでは、農業法人、民間企業、研究者によるパネルディスカッションを開催し、292名が参加した。
- パネルディスカッションでは、農業の経営発展に向けた技術開発・連携について、これまでの取組や課題等について議論を行い、農業の経営発展にとって大変重要な要素となる技術革新を進めるため、共同研究・現場実証・製品化など様々なフェーズの取組と連携をより一層深めていくことが重要との方向性が示された。

パネルディスカッションの概要

- 日本農業法人協会山田会長、斎藤副会長から自らの経営における問題点について指摘があった。
- 経団連高橋部会長から、農業技術の革新と農業界・経済界・研究者の連携加速が重要と指摘。経団連としては、政策提言等を活用して、積極的に後押ししたいとの発言があった。
- 農研機構からは、多様なステークホルダーが一同に会して研究戦略や知財戦略等を検討する「食の未来サロン」を紹介し、賛同を得た。



日本農業法人協会山田会長の挨拶



フォーラムにおけるパネルディスカッションの様子

「農業技術革新・連携フォーラム」概要

- 149名が水田作・畑作・地域作物・露地野菜分科会、施設野菜・花き・果樹分科会、畜産・酪農分科会の3つに分かれて行われた。農業者はニーズ、研究者はシーズ、企業はサービスを紹介し、それを基に活発な議論が展開された。
- 水田作・畑作・地域作物・露地野菜分科会
 - スマート農業では、デフォルトモデルを出し、個人で試しながら修正していく方が良いのではないか（研究者）
 - 人材育成に関しては、人を増やすのではなく、今いる担い手農家の二代目の育成に助成してほしい（農業者）
- 施設野菜・花き・果樹分科会
 - コマツナハウス栽培で緊急の水やりシステム、コンテナに整列収納できる収穫機が欲しい（農業者）
 - ユビキタス環境制御システムは、栽培状況の見える化だけでも効果がある。統一プラットフォームの構築を進めてほしい（農業者）
- 畜産・酪農分科会
 - ダイバーシティに配慮した畜舎構造や作業性の改善を進めている。女性、外国人、高齢者等が働きやすい環境を整えることが重要（農業者）
 - 堆肥化過程から水素を取り出せないか。畜産がエネルギーを供給し、社会貢献していることを発信できるよう期待（農業者）
- 分科会では、農林水産省から農業政策の紹介も行われた。



各分科会において、活発な議論が展開